

広報

もり 中部の森林



緑の募金
2024春

写真：鍋倉山のブナ
(デジタル森林紀行 テーマ「青」〈青い風景〉より)

特集

- ・令和6年度中部森林管理局の取組

シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り組手でつなげる支援 東北+熊本+能登
ながさか工房 長坂 洋



林野庁中部森林管理局

2024/No.242

中部森林管理局の事業概要
 〈令和六年度の取組のポイント〉

【企画調整課】

四月二十四日、令和六年度の中部森林管理局の取組について記者発表を行いました。ここでは、令和六年度の主要な取組についてご紹介いたします。

I 公益重視の管理経営の一層の推進

◇多様な森林への誘導

・ 林齢や樹種の異なる林分が交互に配置された森林や、針葉樹と広葉樹が混ざり合った森林への誘導に取り組みます。

・ イヌワシの生息地周辺において、伐期に達した人工林の伐採・再造林によりウサギやネズミ等の餌となる動物の増加を促し、狩場を創出します。

・ 世界的にも希少で貴重な天然ヒノキ等の森林を守り育てる「木曾悠久の森」の設定から十年の節目を迎え、これまで進めてきた、時間をかけて人工林を元々の生態系に戻していく「復元」の取組等につ

いて、シンポジウムの開催等により、広く国民に情報を発信します。



設定から10年を迎える「木曾悠久の森」
(木曾森林管理署管内)

◇安全・安心への貢献

・ 国土強靱化の取組として、激甚化する災害からの被害を防止・最小化するための流木対策、崩壊した林地の復旧を実施します。

・ 大規模な山地災害が発生した際に、県・市町村等とヘリコプターによる合同調査や、応援要請のあった県へ森林土木技術者の派遣を実施します。

・ 災害発生後すみやかに航空レーザ計測業務を行うことにより、災害状況を的確に把握し、県や市町

村へ情報を提供します。



「流木捕捉工」により捕捉した流木
(富山森林管理署管内)

II 森林・林業施策全体の推進への貢献

◇「新しい林業」の実現に向けた

効率的な林業の推進

・ 持続的な林業経営を構築するため、伐採から再造林、保育に至る全体の収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向け、国有林のフィールドを活用して低コスト化・省力化の実証等を実施します。

・ 具体的には、これまで人力主体で行っていた造林・伐採作業につ

いて、効率的な機械の活用による作業の効率化や、大苗の導入による下刈回数削減などに取り組めます。

・ これらの取組の成果については現地検討会等を通じて林業事業者や行政関係者へ紹介します。

◇木材の安定供給と需要拡大

・ 国有林野が有する豊富で多様な森林資源を活かし、国産材の安定供給を下支えするとともに、伝統的建築物の修復用資材や大型公共建築物など特殊用途へのニーズにも対応していきます。

・ 高齢級・高品質な特定の樹種について中部森林管理局が独自にブランド化した「**高木曾**（東濃）ひのき」、「**段戸SAN**」（ヒノキ）、「**信州プレミアムカラマツ**」を積極的にPRし、需要の拡大を図ります。

・ 木質バイオマス発電の需要に因應するため、伐採跡地で発生する枝条や端材（いわゆるD材）の販売情報をHPで公表するなど、資源の有効活用についても積極的に取り組みます。



ヒノキのブランド材「段戸SAN」
(愛知森林管理事務所管内)

◇花粉発生源対策

・政府が策定した花粉発生源対策において、令和十五年度までの十年間でスギ人工林を約二割削減するとされたことを踏まえ、着実な伐採の実行と伐採指定箇所を追加を進めます。

・都道府県が設定した「スギ人工林伐採重点区域」が含まれる市町村に所在する国有林の一部を「重点区域に準じた国有林」とし、当該区域を主体に伐採を推進します。
・伐採後の植替えにあたっては、

花粉の少ないスギ苗木を使用します。



一般的なスギ

花粉の少ないスギ

(写真：国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)

◇シカ被害対策

・事業者への委託による捕獲のほか、猟友会へのわなの貸出しなど地域ぐるみでの取組を実施します。
・林野庁職員が開発した、シカの習性を利用し初心者でも高い捕獲効率を期待できる「小林式誘引捕獲法」を積極的に普及します。また、わな見回りの負担を軽減する

「捕獲通知システム」の導入等にも取り組みます。

・シカ被害が懸念される新植地や、希少な高山植物等の保護が必要な箇所へ、状況に応じて防護柵を設置します。



小林式誘引捕獲法（餌を食べる時に前足を出すシカの習性を利用）

◇民有林との連携

・市町村の森林・林業行政に対する技術支援として、中部森林管理局が実施する研修・現地検討会への市町村職員の参加や、森林管理署の事業現場の見学会等に取り組んでおり、引き続き、地域の実際や市町村の要望を踏まえながら推進します。

・林業事業者が複数年にわたり樹木を採取できる「樹木採取権」の設定により、森林管理の担い手育成に貢献します。令和六年度は、岐阜県飛騨地域での区域指定を進めます。

Ⅲ 「国民の森林」への管理

経営

・自ら森林づくりを体験したい、などのニーズに応えるため、NPOや企業等が継続的に国有林野を利用できる「協定締結による国民参加の森林づくり」を推進しています。

・レクリエーションの森の中でも特に魅力的な観光資源として選定されている「日本美しの森お薦め国有林」の情報発信や環境整備等を実施します。

・「国有林おさんぽMAP」の公表など情報発信を引き続き実施し、国有林を活用した地域の観光振興に寄与します。

※令和六年度 中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページまたは、コードを読み込んでください。



金華山で林野火災防御訓練

【岐阜森林管理署】

二月二十八日、岐阜市にある金華山国有林において、林野火災防御訓練が行われました。

この取組は、「春の火災予防運動」前に毎年実施されており、岐阜市消防本部が主体となつて、市内各消防署、岐阜県防災航空隊、当署、岐阜市役所、ロープウェイ事業者などから、約二〇〇人が参加しました。

訓練では、金華山中腹から出火したとの想定で、消防本部によるドローンを活用した情報収集と航空隊への出動要請に始まり、ヘリコプターによる空中消火が行われました。

地上では、各消防署が、山麓の岐阜公園及び岐阜森林事務所からの二つの登山道を利用し、山頂までの標高差約三〇〇m、延長約一kmの間に消火ホースを引き延ばして放水したほか、当署では、ジェットシューターによる残火処理放水を行いました。



標高差300m、延長約1kmの登山道にホースを延ばしての放水

このほか、市役所やロープウェイ事業者は、観光客や登山者の避難誘導を行うなど、関係機関が連携して訓練にあたりました。

訓練後、岐阜市消防本部次長から、「平成十六年から火災が起きていないのは、関係機関が防火対策に取り組んだ成果。有事には訓練を活かし消火活動を行うことになつて、引き続き防火啓もう活動の協力をお願いしたい」との講評がありました。

金華山登山道は、岐阜市の条例で路上喫煙禁止区域に指定されていますが、パトロールを行うとタバコの吸い殻が確認されています。当署では、林野巡視等を通じて関係機関と協力しながら、引き続き山火事防止活動に努めます。

広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会の開催

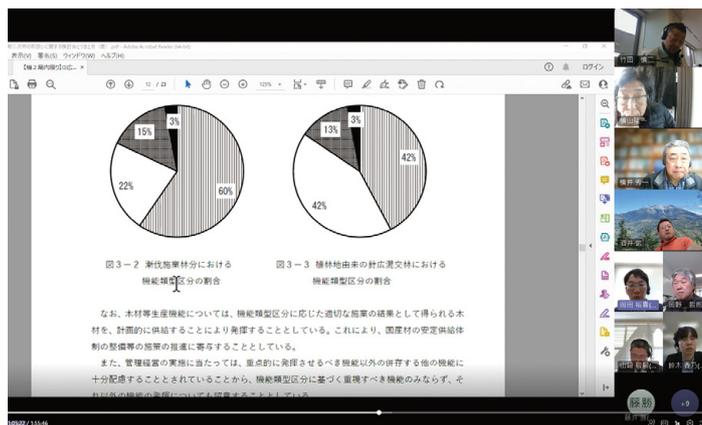
【計画課】

二月二十九日、第四回目となる「広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会」をオンラインにて開催しました。

本検討会は、管内の広葉樹二次林について、森林の有する公益的機能の維持増進のための施業の必要性について検討した上で、施業を必要とする箇所を考え方や留意すべき事項、伐採木の利用可能性等について検討すべく設置したものです。

今回の検討会は、昨年八月及び十月に開催した現地検討（北信・飛騨森林管理署管内）の結果等を踏まえて作成した、本検討会のとおりまとめ案について議論しました。

委員からは、「資源の有効活用も含めた広葉樹二次林の施業を検討するにあたっては、新たな施業方法の検討や伐期齢の見直しが必要ではないか」、「ナラ枯れについては、広葉樹林において重要な問



Web会議システムによる検討会の様子

題となり得ることから、対応策等について検討しておくべき」、「広葉樹資源の有効利用につながる取組が進められていくことを期待する」などの意見や助言をいただき、三月末には、これまでの議論を踏まえたとりまとめを公表しました（左コード参照）。
今後、択伐等の伐採及び天然更新を試験的に行うなど、モニタリングを通じた実践の取組を進めてまいります。



とりまとめ

新居の住み心地はどうか？ 中学生による巣箱掛けを実施

【北信森林管理署】

四月十一日、長野市戸隠山国有林内の戸隠森林植物園において、戸隠中学校二年生十三名による小鳥の巣箱掛けが行われました。

同植物園は、日本美しの森お薦め国有林となつている「戸隠・大峰自然休養林」の中にあり、四季を通じて様々な花や多くの野鳥を観察することができると、魅力的なレクリエーションの森として親しまれています。

周辺にはパワースポットで有名な戸隠神社奥社や戸隠山、鏡池などがあり、その雄大な自然を満喫しようと国内外から多くの方々が訪れています。

戸隠中学校による小鳥の巣箱掛けは、昭和四十二年から続く伝統的な行事であり、自然豊かな戸隠の中で鳥の生態について学び、様々な生き物とふれあい、自然への理解や関心を深めるとともに、植物園内の野鳥の営巣の手助けを目的として実施されています。



残雪の中、協力して巣箱の交換を行う生徒たち

今年には園内各所で早くもミズバショウが芽吹き始め、春の気配を感じられる陽気の中、残雪により歩きづらい園内を、生徒たちは協力して老朽化した巣箱を採出し、はしごをかけ、思い思いに製作した十三個の新しい巣箱に交換しました。

生徒たちは、「巣箱をうまく設置できて楽しかったね」、「小鳥たちが巣箱をいつまでも使ってくれたら嬉しいな」などと話を弾ませながら、笑顔で植物園をあとにしました。

第五十四回上高地開山祭

【中信森林管理署】

四月二十七日、北アルプス南部の山岳観光シーズンの幕開けを告げる「第五十四回上高地開山祭」が松本市上高地の河童橋のたもとで開催されました。

雪解けが進む穂高連峰を背景に地元関係者や観光客が見守る中、アルプホルンの演奏で開山祭が幕を開けました。厳かな神事の後は鏡開きや地元の稲核地区の獅子舞が奉納され、シーズン中の安全を祈願しました。

式典では森谷局長から、景観に配慮した災害対策や高山植物の保護活動など、上高地で行ってきた中部森林管理局の取組を紹介し、引き続き関係者の皆様と一緒に取り組んでいくとの挨拶がありました。

上高地は、国の特別名勝、特別天然記念物に指定されていますが、大半が国有林であり、本州ではここにしかない希少なケシヨウヤナギの保護林や自然観察教育に



適したレクリエーションの森が設定されています。

昨年、上高地を訪れた観光客や登山者は百三十二万人にのぼり、過去十年間で最多となったと発表されています。

標高一、五〇〇以上の高地にありながら、梓川沿いにはほぼ平坦な地形が約一〇キロにわたり続いているため、散策路はとても歩きやすく、日帰りの短時間滞在でも変化に富んだ景色が楽しめる歴史ある避暑地でもあります。

是非、上高地を訪れ、心身ともにリフレッシュしてみたいかがでしょうか。



多数の観光客が見守る中で行われた開山祭

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曽森林管理署

藪原森林事務所

首席森林官 松田 博文

藪原森林事務所は、木曽川最上流部の長野県木曽郡木祖村に位置しています。



味噌川ダムから見た国有林

管轄している国有林面積は約七、八三〇㊦あり、このうち約六割は、カラマツを主体とする人工林となっています。

日頃の主な業務は、植林地における保育・伐採などが適切に実行されているかの確認や、事業者の監督などになります。

このほか、木祖村等との会議や地区行事など地元と接する機会が数多くあり、地域の国有林の顔となるよう努めています。



間伐実施後のカラマツ林



やぶはら高原はくさいマラソン大会
味噌川ダム堤体を疾走

管内には、樹齢約二〇〇年のヒノキ・サワラをはじめとする針葉樹とブナ・ミズナラなど広葉樹の巨木が入り混じった「水木沢天然林」があり、手軽に散策できるコースが整備されています。四月下旬に開園となり、ちょうど今は新緑を楽しむことができます。

また、毎年一、〇〇〇人以上が国有林内を力走する「やぶはら高原はくさいマラソン大会」は、今年も六月三十日に開催予定です。

■未来の担い手へのメッセージ
木祖村は、木曽川の源流の里と



水木沢天然林遊歩道を点検中の筆者

して、地域住民の水源地だけでなく、味噌川ダムよって中京圏の水がめへの役割を果たしています。当事務所は、その最も上流域にある国有林から将来にわたって豊富できれいな水を供給できるよう、森林を保全・管理する役目を担っています。

また、森林官の仕事には、赴任した先々で、地域ごとに違う森林や風景に接しながら、デスクワークでは味わえない良さがありません。一緒に山を歩いてみませんか。

